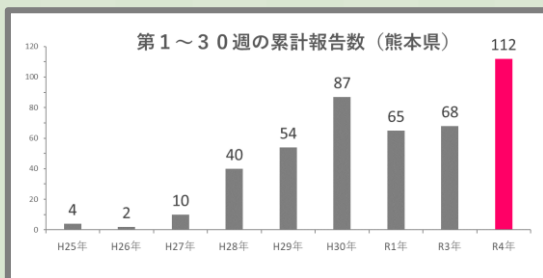
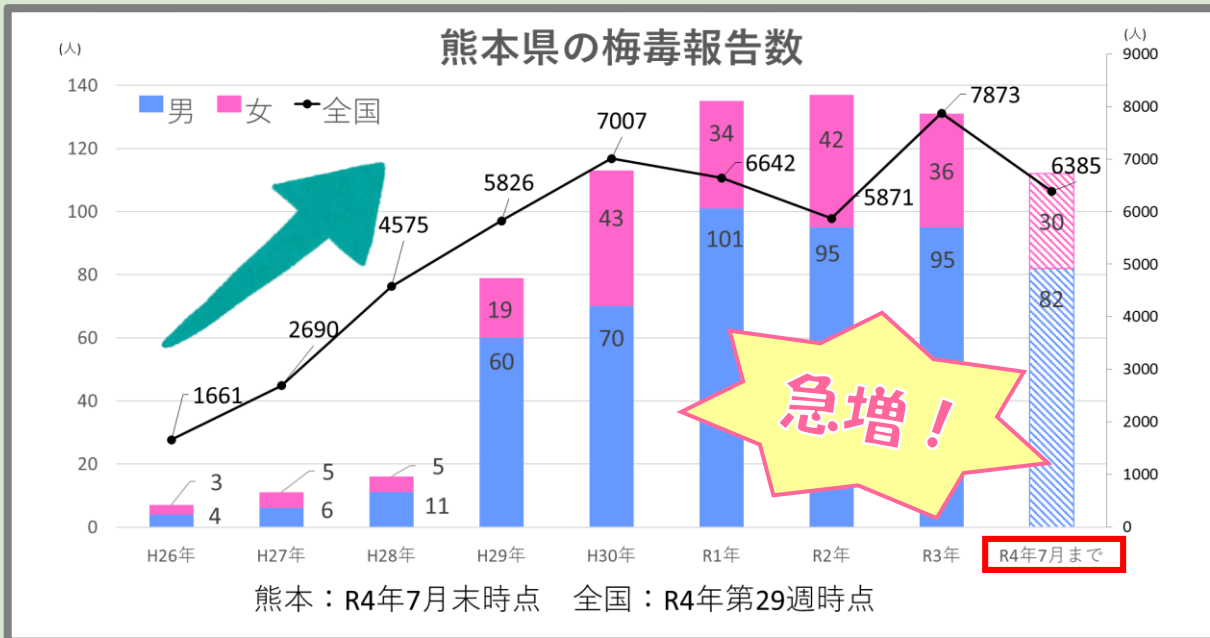


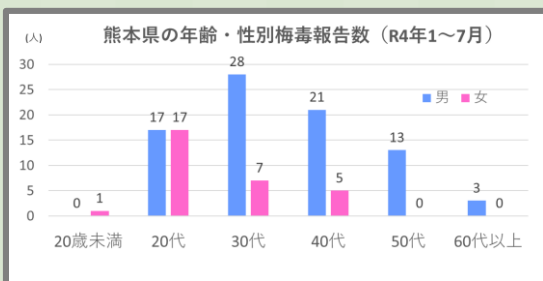
梅毒が急増しています



- 梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体が性的な接触により感染する病気です。
- 1960年代以降は治療薬(ペニシリン)の普及により拡大が抑えられてきましたが、この数年、再び全国的に感染者が増加しており、熊本でも急増しています。



今年は過去最多ペースで感染者が増加しています

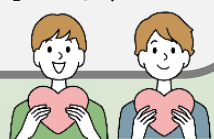


20代～40代の男性、20代の女性を中心に感染者が増えています

予防が大切!

コンドームなしの性的な接触や不特定多数の相手との性的な接触を避けましょう

- 梅毒は性器同士の接触やキス以外に、オーラルセックスでは口の中やのど、アナルセックスでは、肛門や直腸に感染します。
- 皮ふや粘膜に異常があるときや、感染者又は感染の疑いがある相手とは、性的な接触は避けましょう。



梅毒がどのような病気か知っていますか？

○梅毒トレポネーマという病原体が性的な接触により感染すると、次のような症状があらわれます。**症状が消えることがあります**が、**治療しないと治りません**。

第1期（感染後約1か月前後）

○感染部分(性器・口・肛門など)の「しこり」や「えぐれ」ができます。
○股の付け根部分のリンパ節の腫れができます。
※痛みもなく、約1か月ほどで症状が消えてしまうため、治ったように思いますが、病原体はなくなっていない。

無症状であったり放置していても症状が消えることがありますが、**病気は進行しています！**

検査・治療を！

第2期（感染後1～3か月）

○手のひら・足の裏にカサカサした発疹や全身に「**バラ疹**」ができます。
※症状が自然に消える場合がありますが、病原体が全身に運ばれているため、治療をしないと危険です。

「**バラ疹**」



参照:厚生労働省HP「これって性感染症？」

第3期（感染後数年）

○皮ふや筋肉・骨などにゴムのような腫瘍ができます。
○脳・心臓・血管などに病変が起こります。
※**治療せず放置し続けると、生命に危険が及ぶ場合があります**

○HIVやクラミジアなどの**他の性感染症にも感染しやすくなります**。
○妊娠している人が梅毒に感染すると、**赤ちゃんに感染し、早産・死産・障がいが起こることがあります**。

予防も忘れずに！

早く発見し、きちんと治療を受けることが大切です！



- 医師の判断に従い**抗菌薬を内服**して治療します。
- 医師が安全と判断するまでは、性的な接触は控えましょう。
- パートナーと一緒に検査や治療**を受けることも大切です。
- いったん完治しても免疫はできないので、**予防しなければ感染を繰り返します**。

心当たりがあるときは？

- たとえ症状がなくても、心配な性的な接触をしてしまった場合などには、**検査**を受けましょう。
- 皮膚科、泌尿器科、婦人科などで、検査や治療が受けられます。
- 県内に10か所ある保健所でも、**無料・匿名**で検査が受けられます。
*新型コロナウイルス感染症の影響により検査を休止しています。

熊本県 令和4年8月作成

参照:厚生労働省「梅毒に関するQ&A」「これって性感染症？」 熊本県「STI性感染症 今そして未来のために」